

奨学金制度の改善、給付型奨学金の導入・拡充と教育費負担の軽減  
の実現に向けた院内集会

2016年3月23日 報告 水谷英二（愛知）

日時 2016年3月22日 17時30分～18時30分

場所 参議院銀会館 1階講堂

主催 労働者福祉中央協議会（中央労福協）奨学金問題対策全国会議

当日は、約400名の参加、議員50名、代理出席49名、マスコミ各社の取材もあり大盛況であった。公明、民主、共産、維新、生活、社民からは議員が本人出席し、発言は、公明は石田政務調査会長、民主は蓮舫副代表、維新は松野代表、共産は小池副委員長、生活は玉野幹事長、社民は吉田党首と各党とも重鎮が出席した。自民からは参加がなかったが、超党派の流れは確実にできたといえる。署名は301万3851筆が並べられた。

開会あいさつでの神津里季生労福協会長から、世耕官房副長官に署名の一部を渡し、党派を超えた取り組みを要請した。世耕氏からは、政府も現在の状況がいいとは思っていない、という発言があったということである。

続いて、大内中京大学教授より基調提起があった。

2010年にこの問題に気がついた。右肩上がり、年功序列の体制がくずれ、低賃金にあえぐ労働者が増えている。こうした中、奨学金返済ができないことは決して自己責任では無い。結婚、出産、子育てができず、未婚、少子高齢化を促進している。また親の貧困が子どもに連鎖している。一刻も早く給付型奨学金を実現することが大切だ。

当事者発言では、愛知県 学費と奨学金を考える会の学生から、自身の毎月12万の奨学金、700万の借金を背負って社会に出ることになり大きな不安を訴える声と同じように多くの仲間が同様であることの報告があった。

続いて、当事者発言では神奈川県教員からは、初任給手取り19万、社会保険料、生活費を除いて、手元に2万円残るだけ。そこから2万以上の奨学金返済をしている。教材、スーツも買うお金がない。結婚して妻も奨学金を借りている、公立の教員でも生活は大変な状態である。子どもは親を選べない。今こそ給付型奨学金を導入するべきだ。

（民主 蓮舫）

もうすぐ党名が変わるが（笑）前置きして、奨学金は今や教育ローンである。中卒、高卒でもいいではないか、という非難の声もあるが、ひとり親家庭の進学率25%と低いことを考えると、生まれながらの差別があってはならない。軽減税率をやめると1兆1000億円の財源があるが、給付型奨学金を実現できる財源に相当する。早急に給付型奨学金を実現すべきだ。

（公明 石田）

親が日雇い、母は内職の家庭に育ち、奨学金がなければ、高校、大学に行くことができなかった。高等教育に力を入れなければならないと考えている。当時、高校の返済は月3000円借りて1500円の返済、大学は月8000円借りて3000円の返済、教員は

返済不要であり、事実上、給付型奨学金となっていた。二人の話を聞いて今はそのような状況では無いことがわかった。与党では平成33年度からできないか協議している。

(共産 小池)

貧困の連鎖を断ち切るための具体的な議論をするべき時期となっている。月額3万の給付型奨学金、奨学金債務者の半分70万人に支給していくことで7000億円?でできる。有利子が無利子化して、利子補給をすることで1000億円。公明党の案とも併せて実現できる。機構が、取り立ての相談窓口となっているが、これを救済相談の窓口にしていく必要がある。300万筆の署名を力にしていく。

(生活 玉城)

沖縄では、大学進学を諦めて借金せずに専門学校へ行く、学費を免除できるような選択をする学生が増えている。若い人が悔いのない人生を送れるような選択肢を奪っていることが問題だ。

(社民 吉田)

延滞者の46・2%が非正規労働者、83・2%が年収300万以下。格差の是正が重要。金持ち、富裕層を優遇していることが問題。GDP予算の3・5%が教育予算であるが、OECD34先進国の中で最低。教育予算を増やすことが必要。超党派で取り組む。

#### 各団体からの発言

(中央労福協花井事務局長) キャンペーンのチラシの紹介と署名を渡した世耕氏の対応の報告。

(日弁連紅山綾香弁護士) 高等教育無償化があるべき姿と考えているが、給付型奨学金、所得連動型もその前提として大事。返済困難者の相談活動も力を入れている。

(コープさっぽろ) 1/1~2/20という短期間で、目標を定めて、署名活動を行い、実現した経緯を報告された。

学校現場(東京都高等学校教職員組合) 無利子奨学金を申し込みをしようにも、年収200万でも外れたケースがある。300万~400万のところ受けられるような制度設計をすべき。

入学金に対応していない。入学金は4月以降しか下りてこないため利息の高い民間ローンを借りている。卒業後、返済計画を考える進路指導をすることに疑問。

#### 閉会のあいさつ

(岩重佳治弁護士・奨学金問題対策全国会議事務局長)

卒業と同時に、債務者として送り出すことに心が痛む。奨学金とは名ばかりのローンで自由な選択肢を奪われている。返せない人にレッテル張りをしている。返すの当たり前と考えると、助けてという声を上げられない人がたくさんいる。私たちに残された時間はそれほどない。超党派で取り組んでほしい。本日はその出発である。